

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体会議、ユニット会議にて事業所理念を確認、共有を図った。また、ユニット内に重点取り組みを掲示し実践につなげている。	法人の示す理念を基に、重点的に取り組むべき目標を全職員で話し合い、今年度は「個別ケアの推進と安心と楽しみのある暮らし」、「認知症ケアを始めとする各種研修への参加、職場内研修を通して個々の資質向上」の2項目を掲げ取り組んでいる。今年は新型コロナウイルスの対応で外部との交流や外出等が難しい中、いつもとは違った夕食会の企画など、今出来ることへの工夫を重ねながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外気浴の際には声をかけていただき、互いに笑顔ある挨拶を行っている。近隣の方からの野菜をいただくことも多い。また、地域行事や施設行事等、互いに声を掛け合って参加できるようにしている。	事業所前の小学校より毎年運動会、文化祭などの招待を受け、出かけている。また地域に向け、事業所行事への声掛け等、日常的に交流を図っている。今年は地域行事が中止や制限のある中、事業所前を通る小学校の児童に向け、ベランダよりマラソン大会の応援を行った。また保育園からサツマイモをいただいたり、地域の方から季節の野菜を戴くなど、日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在感染症対策により見合わせているが、介護予防拠点を体操教室の場として、また地域の休憩所として開放している。他、学生の体験学習やボランティア活動の受け入れを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、事業報告やサービスへの相談をし助言や要望をいただいている。今年度は感染症対策により、書面での報告を行っている。	会議は地域密着型特養施設と合同で開催しており、今年度はコロナ禍の中5月と7月、書面にて行った。区長、民生委員、地区の方、地域包括支援センター職員、家族代表1名と各事業所の代表で構成され、事業所の現状や実績の報告を行い、サービスについての要望や助言をいただく機会としている。利用者家族については、家族代表としての意見をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、事業所が地域密着型サービス事業所としての役割を果たす上で、地域と共に貴重な協力者として、助言や意見をサービスの向上に活かしていく重要な機会でもある。意見が少数の家族代表に留まらず、より多くの意見要望を集める努力や、会議に参加されなかった家族への報告等、共に共有して行く取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括の職員から参加して頂き、報告に対しアドバイスや意見をいただいている。また、不明な点は市の担当者に連絡している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加していただき、事業所の現状報告を行い、アドバイスや助言をいただいている。介護予防教室の取り組みや、昨年度はオレンジカフェについて助言をいただき開催した。事業所の現状や取り組みを伝えながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修に参加している。勤務上参加出来なかった職員に対しても、ユニット会議にて復命研修を行っている。今年度より拘束虐待検討班を設置し、今まで以上に理解を深め各職員が適切な対応が取れるよう努めている。施設玄関は防犯上の理由により、夜間のみ施錠している。	法人の開催する研修会に事業所職員が参加、身体拘束について学んでいる。参加出来なかった職員に対しては、ユニット会議の議題に上げ、復命研修と言う形で、全職員が理解できるよう工夫している。今年度より身体拘束、虐待班を新たに立ち上げ、表に現れない、グレーな部分の意識と共有を図るべきと考え、今以上に、身体拘束に対する認識を深めるよう取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修に参加している。勤務上参加出来なかった職員に対しても、ユニット会議にて復命研修を行っている。今年度より拘束虐待検討班を設置し、今まで以上に理解を深め各職員が適切な対応が取れるよう努めている。	法人の主催する研修会に参加し、虐待について学ぶ機会を持ち、ユニット会議にて振り返りを行っている。また職員向けにアンケートを行い、集計結果の評価から、判断に迷う事例については会議の中で話し合い、共有を図っている。今年度より設置した虐待、身体拘束班を中心に、マニュアルは随時見直しを行いながら虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修に参加している。勤務上参加出来なかった職員に対しても、ユニット会議にて復命研修を行っている。必要時には制度を利用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に契約書や重要事項説明書の説明を行っている。不明点等もお伺いし、説明を行っている。法改正があった場合にも文書や口頭での説明を行い、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情相談窓口の説明を行っている。また、ケアプラン作成時や面会・電話連絡時に意見・要望を伺い、ユニット会議で情報共有・検討を行っている。	玄関入り口に意見箱を設け、地域や家族からの声を聴くよう努めている。今年は面会制限のある中、家族との交流を大切に、写真入りの手紙にて暮らしぶりを伝えながら、意見や要望を聞いている。9月より時間制限の中で面会を可能とした。家族より居室担当が変わることに対する意見をもらい、今後は慎重に対応を行うことで、意見、要望を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務やユニット会議、人事考課面接の際に意見を聞くよう心掛けている。意見はユニット会議等で話し合い、事業会議の際には報告し、運営に反映させている。	毎月のユニット会議にて職員からの意見、要望を聞いている。また人事考課の個人面接時に異動への希望も含め、意見を聞く機会としている。居室、廊下の装飾や置物については、清潔面への拘りや、落ち着いたある住居作りの工夫など、職員からの意見や要望を事業所内の環境作りに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の定める就業規則や給与規定に基づいて運営している。人事考課制度に取り組み、自己目標を掲げ、向上心を持って働けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人研修、施設研修、また法人外の研修へも計画的に参加している。その後、ユニット会議にて復命研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新潟県認知症高齢者グループホーム協議会に加盟し、研修会で他施設の職員と交流する機会がある。また、法人内のグループ補むと連絡を取り合い、検討・協議を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から各種機関からの情報収集を行っている。可能な場合には本人への面会、施設見学にも来ていただき、その際にも話を聞き安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業者側からの説明だけでなく、ご家族様の立場になり不安な事や要望等を伺うよう心掛け、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様、居宅介護支援事業所からの情報を基に胃炎内容を検討し、必要なサービスが提供できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で入居者の方の出来ることを大切に、それぞれ役割を持ち生き生きと生活して頂けるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や日用品の用意はご家族様が行っている。面会時や電話、毎月の手紙にて様子をお伝えしている。また、支援方法についても相談している。	職員は電話やお便りなどで、日々の暮らしぶりを伝えている。また支援の方法については相談しながら本人との関係が途切れないよう協力を得ている。受診の付き添いや日用品、衣類の補充など、お願いしながら家族の一員としての絆を大切に共に支える関係を築いている。	
		本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけ医を継続し利用して頂く他、外出の機会にはなじみのある場所を考慮し出掛けるようにしている。現在外出や面会に制限があるが、可能な限り対応している。	入居前からのかかりつけ医を継続されている方は18名中で16名と、これまでに大切にしていた人や場の把握を行いながら、関係の維持に努めている。行きつけの床屋さんに行く方も居られ、面会制限がある中で可能な限り地域との馴染みの関係が途切れないよう、リスクを意識しながら支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や他者との関係性を観察・把握し、より良い関係性を持ち支え合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じてご家族様の相談に応じる他、他事業所や医療機関への情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の様子や会話の中から個々の希望や意向の把握に努めている。聞き取りが困難な方に対しては、過去の生活歴やご家族様からの聞き取りを行い、思いを汲み取ることが出来るよう取り組んでいる。	日々の生活の中での関わりや、会話の中から思いを汲取るようにしている。入所間もない方の対応では、家族の協力が必要であることをお伝えし、電話や手紙でのやり取りが適切に出来ている。農作業が好きな方に対しては、玄関先の花壇作りや、枝豆作り等、意向や思いに添うよう工夫しながら取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様から生活歴や習慣・環境について情報収集している。また、入居前の担当介護支援専門員から話を聞いたり、自宅へ訪問させていただくこともある。	入所時、家族からの聞き取りや面会時に生活上のエピソード等も含めながら聞いている。また日頃の会話の中での聞き取りや前任ケアマネジャー、サービス事業所からの情報等、生活歴と重ねながら、これまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートの作成、定期的な更新を行いその都度状況の把握に努めている。また24時間シートへの記録、職員間での申し送りにより情報共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の意向を確認し、ユニット会議にて課題や支援方法を検討しながら現状に即した介護計画を作成している。また、チーム全員がより良い支援を行うことが出来るよう、関わりを綴ったノートを活用を行っている。	利用者の「24時間シート」を作成し、プランに沿ったケアが行えるよう工夫している。計画作成者が入所前の介護支援専門員からの情報や面接で得たアセスメントから計画書の原案を作成している。担当者モニタリングは3ヶ月ごとに行い、サービス担当者会議において、6ヶ月毎に見直し、その都度、利用者の意見や状況は家族にサービス担当者会議への参加の確認も含めて取り、欠席時は電話等にて意見をいただき家族の意向が反映されるよう心掛けている。今年は電話で確認し意向をくみ取るようにして支援を継続している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートに沿った個別の記録を行っている。また申し送りや連絡ノートを使用し情報の共有、検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応出来るよう、決められた業務に囚われず、職員間で業務の調整をし柔軟な対応を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年地域の行事に声をかけていただき参加しているが、現在感染症対策により見合わせている。また、近隣の方から野菜をいただくことも多く、その時期の新鮮な野菜を食べ季節を感じていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に継続して受診している。受診の際にはご家族様が付き添い、状態についてはご家族様の他、医師へ書面等により報告している。緊急時や必要時には職員が対応している。	入居前のかかりつけ医師へ受診している利用者が多く、緊急時には職員送迎もあるが、家族送迎の協力を得ている。往診に来て下さる医師や週1回の訪問看護師等々、夜間時も連携が取れる体制が出来ており、緊急時のマニュアル整備や搬送時の持ち出しファイルがあり、関係性を築きながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護があり、その際に直接様子を見てもらい状態報告や相談を行っている。緊急時にも24時間オンコールで連携している為、すぐ連絡が取れる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を医療機関へ提供している。入院中には適宜ご家族様や病院の地域医療連携室と連絡を取り、カンファレンスを行いながら、早期退院に向け協議している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、入居前にご家族様へ説明している。状態が低下していく中で早めにご家族様と面談を行い、可能な限りご本人やご家族様の意向に沿うことが出来るよう、かかりつけ医、訪問看護氏と連携を取り対応している。	重度化・終末期の対応については、入所前利用者の家族に説明している。現在事業所の中で、重度化の状況や状態変化について家族との相談を行い、事業所のできることを説明するとともに、家族の話や意向を聞き、可能な限り介護の現場と医療・家族の思いを共有しながら対応しているが、終末の看取りは行っておらず、住み替えていただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修や施設研修に参加している。参加出来なかった職員に対してはユニット会議にて復命研修を行っている。また、マニュアルも整備し、急変時等にはマニュアルに沿った対応が出来るようにしている。	急変時の救命救急研修やAED使用研修を継続して行っていたが今年はコロナ対策で落ち着くのを待っている。管理者が管理している「救急車を呼ぶマニュアル」があり、対応できる体制がある。	マニュアルの整備があり、必要時の現在対応が行われている。今後は、マニュアルを職員いつでもどこでも見られるよう職員のフロアにも整備されることを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、非常時に備え対応出来るよう努めている。また、防災機器の取り扱いや消火訓練等、定期的に防災訓練を実施している。地域の駆け付け人もおり、協力体制が出来ている。	「防災時対応マニュアル」「災害時連絡マニュアル」等の整備と共に、防災時駆けつけていただく地域の方の名簿を作成、地区長はじめ声掛けを継続して行っている。防災訓練時にはその方達も参加、協力を得ている。ハザードマップ確認や非常時持ち出し備品の用意など、災害対策に留意しながら協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、自尊心、プライバシーに配慮した声掛けを行っている。排泄や入浴の際は特に注意し声掛けを行っている。申し送りの際にも呼名は控える等工夫、配慮している。	プライバシー保護に関する研修は法人研修を行っており、マニュアルが用意されている。職員一人一人の日々の対応について、権利擁護等の研修を生かした言葉かけを工夫しながら行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々コミュニケーションを十分に取り、思いや希望を傾聴し自己決定出来る関係、環境作りに努め支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れや活動等の声掛けは行いが、一人ひとりの生活リズム、その時々意向を汲み取り、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で出来ることはしていただき、意向を確認しながら衣類や洗面道具等の準備など、必要な部分は支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食事の嗜好を把握し、また希望も伺いながら献立を立てている。また、旬な食材を使うことで季節を感じる事が出来るよう配慮している。配膳、下膳、可能な場合には調理も一緒に行っている。	コロナ禍の現在、食材購入時いつものような利用者参加は難しい状況はあるが、近所のお付き合いの中で、野菜や冬瓜・サツマイモなどの貴い物が今年もあり、利用者は皮むき等の下ごしらえや盛り付け、後片づけなど、職員と一緒にいる。訪問当日は、2ユニットそれぞれの献立で、テーブル席・カウンター席等で、食事を楽しんでおり、食べたい献立のリクエストもあり、利用者の楽しみの時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考える他、食事内容や形態、量などに配慮している。毎食個々に食事量を記録し、体重の変化にも注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の口腔状態にあった方法で口腔ケアを行っている。口腔内の観察も含め、必要時支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援が必要な方に対しては排泄チェック表を使用し、排泄パターンを把握するとともに現状どのような援助が必要か検討している。	トイレはコーナーや各居室にもあり、清潔に保たれている。利用者一人一人の排泄リズムを把握し、誘導や声掛けの支援をさり気なく行っている。布パンツの方も数名おり、日々の支援の中で、利用者への自立に向けた職員のチームワークと丁寧な支援が窺えた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の入居者の排便状況の把握と共に、オリゴ糖や乳製品を取って頂いている。また日頃の食生活においても水分量のチェックや食物繊維の豊富な献立を立てる等便秘の予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めず、その都度声をかけ実施している。希望があった場合にはそれに合わせ入浴して頂いている。また、入浴剤の他ゆず湯やしょうぶ湯など季節を感じる事が出来るよう配慮している。	事業所には、一般浴とリフト浴があり利用者の状態に合わせ、その方のタイミングと希望に合わせて入浴支援を行っている。入浴拒否傾向の方もおられるが、声掛けをその都度工夫し、入浴日を決めず、入浴の支援が出来るよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自由に居室へ戻り休んでいただける状況となっている。また、リビングで眠気が見られる際には声掛けを行っている。居室は個々の状況に応じて照明や寝具、ベッド配置など室内環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の薬カードがファイルに閉じられており、いつでも確認できるようになっている。内服時には誤薬防止の為本人確認の徹底、飲み込むまで確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方に毎日の楽しみや役割を持って頂けるよう支援している。食事の支度や後片付け、洗濯物たたみなどの家事活動や、散歩や体操を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在感染症対策により見合わせているが、買い物や散髪等、個別の外出の機会を設けている。また、季節に合った場所へのドライブも行っている。定期的にご家族様と自宅へ戻られる方もいる。	事業所の周辺は、見晴らしもよく公園なども多くある。いつもの年は様々な所へ出かけていたが、今年のコロナ禍の対策により、いつもより、個別の外出を行った。買い物や散髪にでかけたり、回転すし等の希望があった。すぐ近くの蕎麦レストランに出前をお願いし、季節を感じながら食事を楽しんでいる。事業所は複合施設であり、広い敷地を日々散歩したり、草取りされる利用者への見守り等、本人の希望に添って支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で金銭管理をされている方もおり、自動販売機や外出時等、使用される際には見守りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけたり、電話があった際には取りついでいる。手紙やはがきが届いた際には、返事が出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い清潔保持に努めている。温度や照明の光度等、入居者の方々に合わせ調節している。リビングには季節の花を飾るようにしている。	明るい日差しと共に、落ち着いた生活環境が居心地の良い日々の暮らしを支えている。目立たないような洗濯干し場所や季節の花などを取り入れながら、装飾が大げさにならないような工夫をすることで、清潔で穏やかな雰囲気、生活空間を大切にしている様子が窺えた。窓から見える近くの小学校や保育園児の野外活動などが、いつもの生活感や話題を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う方同士談笑されたりテレビを見たり等、一人ひとりが自由に過ごせるようになっている。他、北側の窓際スペースにソファを配置し、思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れ親しみのある家具等を持ち込んで頂き、ご本人、ご家族様の意向に沿った空間作りを行っている。	各居室には清潔な自分用のトイレ・洗面所が設置されており、本人や家族と相談、持参されたタンスや衣装ケースなどが配置されている。出来ることを支えながら、安全面での配慮や工夫がなされていた。居室の窓からは明るい日差し、居室入り口のそれぞれの方に合わせた表示等々、その人らしく過ごせるよう配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースは安全に配慮した配置を心掛け、またキッチンや洗濯物干しなども入居者の方にも利用しやすい環境を心掛けています。		